

連載7

デコメールなら直感で分かる子どもたち？

塾で学んだ子どもの有利さは早さです。すばやく計算する、余計なことをしないで答えを出すことです。例えば、繰上げで10の単位を上げるときに、学校では「1」を計算式の横にメモ的に書くことを教えますが、塾ではメモをさせないで頭に記憶しなさいと教えます。その方が早く答えを出せるからです。すばやく答えを出す力を養い、全体の知識から（教科）から、一部の教科（数学、理科、国語など）だけを、長い時間をかけて鍛えるやり方は現在の受験制度に適しています。一流大学受験塾のプロ教師が、授業の中で気づいたことをこのように言っています。「先生の話聞き取れない。黒板に書いたものだけを覚える。単語だけの会話で、コミュニケーションが成立しない。漢字や熟語の意味はワープロを交換したような答え。デコメールなら直感でわかる。講義中にここに書かれているこの部分が間違っていると先生が説明すると、学生たちは「先生がこの部分が間違っている」と言ったことしか頭に入らず、どこが間違っているのかに関心を示さない。」とビックリするようなことを書いておられます。

繰り上げ、繰り下げがわからない

低学年担任教師が、教えることの困難さを痛感するのが、やはり繰上げ繰り下げ計算だといえます。10本の指では十分に計算ができるのですが、10本の指を超える数になるとできなくなります。家庭では足の指を使っていますが、いずれ足の指だけでは足らなくなります。15+7は5と7を足すと12。10の位を一つ上げて22。これが繰上げでこの逆が繰り下げです。実際は、繰り上げ、繰り下げ計算を理解できないままに、暗算でやる子どもが大半のようです。中学生の3人に1人はこの計算がわかっていないと言われていています。数字を分けたり、貸したり借りたりすると、その数字の中身までが変化するというのが幼児のものの考え方が、このような計算を難しくさせています。例えば、バナナ3本を向かい合わせて机の上に置きます。そして子どもたちの目の前で片方のバナナを小さく切ります。どちらが多いかとたずねると、細かく切られた断片を目にすると断片のかたまりの方が多いと答えます。3年生の大半は同じだと答えますが、2個の粘土ダンゴを並べて同じ重さということを計りで確認させた後、一方のダンゴを平たくセンベイ状にすると、センベイの方が増えたと答える子どもが3年生で70%だという報告もあります。水や粘土など、同じ量であれば容器を変えても、形を変えても中身は変化しないという「保存」という考え方が理解できないのです。